

11/25
 2017年第1284号
 (毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会
 敬 志岐 会
 大 阪 市 浪 速 区 幸 町 1-2-33
 電 話 (06) 6568-7731 (代表)
 http://osk-net.org/
 ● 定 価 ・ 年 間 10,000 円 月 1,000 円
 ● 1977年5月23日第三種郵便物認可



オーラルフレイルをテーマにした記念講演
 = 3日、M&Dホール

日常診療交流会に317人

4年ぶり開催、診療の経験・工夫を発表

診療上の経験や工夫を持ち寄り、歯科医療の向上に役立てようと、協会は3日、第7回日常診療経験交流会を4年ぶりに開いた。オーラルフレイルをテーマに岩佐康行氏(福岡・原土井病院歯科部長)が記念講演(保険でよい歯科医療を大阪連絡会と共催)し、井上美佐氏(守口市開業・内科医)が「認知症カフェ」の取り組みについて報告した。分科会では会員らによる12の演題発表があった。参加はのべ317人。(次号に詳報)

M&Dホールで開いた岩佐康行氏の記念講演では、健康長寿のためにオーラルフレイルの予防について、わかりやすく講演してもらった。

岩佐氏は、日本人の死因の第3位は肺炎で、誤嚥性肺炎による死亡の95%は65歳以上の老人であることを紹介。「年齢とともに喉頭の位置が下がり、嚥下時に喉頭の閉鎖が不十分になり誤嚥しやすくなる」と説明した。口腔内の細菌は400

〜700種類あることから、常在菌が原因で肺炎を起こす可能性を指摘。睡眠中の唾液の不顕性誤嚥や、逆流性食道炎による胃内容物の誤嚥などの危険性について言及した。また、経管栄養や胃瘻で経口摂取していても、細菌の繁殖で口腔内が汚れやすくなるとし、注意を呼び掛けた。誤嚥性肺炎の予防は「抗生物質や洗口剤ではなく、機械的にこすり取る」と話し、口腔ケア

の重要性を強調。摂食嚥下障害を見ていると口の中に原因があることが多く、歯が痛かったり、入れ歯が合っていないなかったりする場合も多いという。診断にはVE(内視鏡)やVF(造影レントゲン)を用いるとし、「口腔機能の向上でしっかり食べられるようにして低栄養のリスクを防ぎ、フレイルへの進行を遅らせるように努めてほしい」と訴えた。(港区・富本昌之)

ラスベガスで驚いたのは空港の荷物受取所など至る所にスロットが置かれ、ホテルはフロントもレストランも全てがカジノを中心に配置されていることだった。ギャンブル依存症を警告するパンフなどはほとんど見当たらず、カジノでは未成年

者の入場チェックもない。街そのものが、全ての客の全ての余裕時間をギャンブルへと誘導し、リピーター(依存症者)にしていく仕組みになっている。実際、滞在中に7割超の客がギャンブルを体験する。その結果、カジノ目的の初訪問客はわずか1割だが、再訪者は12%に跳ね上がる。週末のカジノに足を踏み入れると異様な熱気で溢れていた。ブラックジ

ヤックのテーブルでは、ある客が最高1万ドルの賭けに熱くなっていた。偶然性の賭けなので勝ち負けを繰り返す。勝った時は小躍りし、負けが続いた時は横の妻を覗き込む。無表情な妻にやめるきっかけを無くした客は、数万ドルはあったチップの山を全て失い憤然と立ち去った。同様にやめられない客がATMに行列をなし、夜通しギャンブルを続けていた。射殺犯もまたこういうギャンブル依存症の一人だった。「依存症は深刻だが、そういう奴はこの街に住めなくなる」という現地ガイドの言葉が印象的だった。

番外編・ラスベガス訪問記 ①

赤字構造にあえぐ街

ストリップ地区ですらカジノ収益は低迷している。裕福な観光客をターゲットにした高級ホテル・ウィンのカジノは、新館のアンコールと併せても年間収益6億程度で赤字に苦しんでいる。日本進出を狙うMG M、シザーズ、LVサンズ、エ

ウィンの4大カジノ企業が占拠するストリップ地区の24のカジノ収益は合計54億で、平均約2億ドルしかない。IR化に伴う巨額な設備投資と絶えざる更新、その金利の返済負担、カジノ収益によるホテル代などの料金サービス、エ

ンターテイメントの費用でも激しい痛みでもない。夜間救急が普通の科もあるのだから、歯科医や歯科技工士も偶には徹夜仕事を拒否できない。入れ歯による褥瘡性潰瘍は歯科医にも多少の責任があるが、そのためうつ病の診断を受けた例もあった。多様だから貧乏しながら飽きもせず長年やってきたとも言える。



スロットが設置された空港(上)、カジノ入り口に掲示している小さな注意書き(下)

協会直通番号のご案内
 保険請求のご相談や年金・休業保障制度のお問い合わせは直通番号をご利用ください。
 社保研究部 06-6568-7467
 共 済 部 06-6568-7438

数日後に子どもの結婚式を控えており、「緊急や、何とかせよ」と言っが、別段命に関わるものでも激しい痛みでもない。夜間救急が普通の科もあるのだから、歯科医や歯科技工士も偶には徹夜仕事を拒否できない。入れ歯による褥瘡性潰瘍は歯科医にも多少の責任があるが、そのためうつ病の診断を受けた例もあった。多様だから貧乏しながら飽きもせず長年やってきたとも言える。

医療経済 実態調査

医院の存立危うい状況 診療報酬の改善が急務

富本昌之経税部長が談話

厚生労働省が8日の中央社会保険医療協議会(中医協)に「第21回医療経済実態調査結果」を報告したことを受け、富本昌之経税部長は15日、「歯科医院の存立が危うい状況」であり、「診療報酬の引き上げが急務」とする談話を発表した。調査では、個人立の歯科診療所の医療収益が前

年比0.4%微増したものの、薬品・材料費のマインスマ幅が大きくなっていくことを説明。消費税増税の影響を指摘しつつ、「材料費などを節約することで収支を維持している」と述べた。

さらに、特徴として「最頻」層の収支差額は623万円で、収益・費用とも対前年比マイナスとなり、スタッフの給与費は約50万円減少(▲6.1%)したことを強調。「人件費の削減で経営難を乗り切ろうとしている」とし、「小規模個人経営の歯科医院では、存立そのものが危ぶまれる状況」と指摘。診療報酬改定で技術料10%以上の引き上げを求めた。

益川光夫名誉理事が逝去

益川光夫名誉理事が14日、逝去した。享年88歳。益川氏は、1952年に大阪歯科大学専門学校(現大阪歯科大学)を卒業後、守口市で開業。71年の協会設立時に幹事に就任。75年から11期2年にわたって理事。97年から名誉理事を務めていた。

歯界
 入れ歯のト
 ラブルも多種多様である。入れ歯破折も、食卓の上に置いていてペットに噛まれたとか、新聞紙の下に置いていたのを踏みつけたら壊れたなど。紛失の場合は大抵数日後「出てきました」となる。

「入れ歯を盗まれた」と、さらに「待合室で隣にいた人が怪しい。以前もここでブランド物の傘を盗まれた」と被害妄想的な患者もいる。入れ歯でも窃盗だから警察に訴えるのだろうか、高齢社会で警察もこの手の訴えに慣れていて、困惑もしないのだろうか。